

### ◆ヒヤリハット・事故の芽情報の収集と活用

「1件の重大事故の下には29件の軽度の事故があり、その下には300件のヒヤリハットがある」という法則があります(ハインリッヒの法則)。日頃から「ヒヤッとした」「ハッとした」ことを報告することで全係員が共通の認識を持ち、その原因・対策を考えることで事故を未然に防ごうとする活動が「ヒヤリハット活動」です。



ヒヤリ事故の芽新聞

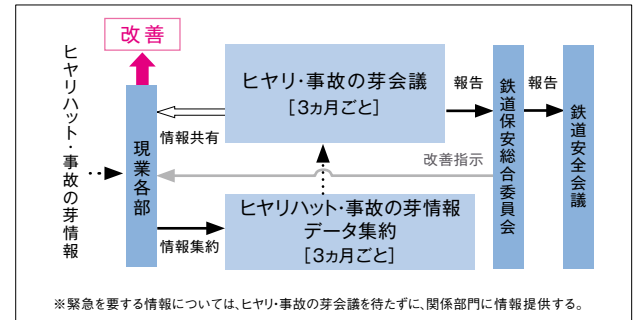
#### ヒヤリハット+事故の芽情報 提出実績 (平成22年度)

	件
直営分	
鉄道営業部(駅)	16
鉄道営業部(運転)	49
工務部	30
電気部	22
車両部	21
大津鉄道部(営業課)	109
大津鉄道部(技術課)	10
小計	257
委託・協力会社	
駅関係	2
電気関係	105
大津関係	3
小計	110
合計	367

また「ヒヤッとした」「ハッとした」事象に限らず、事故につながるかもしれない潜在する危険(事故の芽)を感性で発見し、報告する「事故の芽報告」の取り組みも開始しました。

各職場から集約され、報告された情報は「ヒヤリ事故の芽新聞」に掲載することで潜在する危険についての情報を共有します。また、優先度の高いものについては投資予算にて設備の改善を実施し、事故の芽を少しでも摘み取っていきます。

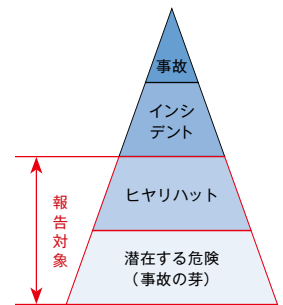
#### ヒヤリハット・事故の芽情報の収集と活用



※緊急を要する情報については、ヒヤリ・事故の芽会議を待たずに、関係部門に情報提供する。

#### ヒヤリハット・事故の芽

事故・インシデントには至らなかったが、一歩間違えれば事故につながったもの。「ヒヤッとしたこと」、「ハッとしたこと」や、放置すれば事故につながる可能性のある、気がかりな事象・事故の芽。



#### ▶活用事例1 踏切障害事故の防止

五ヶ荘踏切は、踏切の構造上遮断桿が線路に対し斜めに降下するようにされていました。このため、遮断桿が歩行者の頭に当たりそうになる事例が発生したり、すきまから誤って踏切内に侵入してしまう恐れがありました。踏切構造を改良し、遮断機と警報機の位置を入れ替えることで遮断桿を線路に平行に設置することができ、問題が解消されました。



踏切より手前に降下していた遮断桿



設置場所を変更することで解消された

#### ▶活用事例2 柵の透明化、カーブミラーの増設

併用軌道交差点付近に下水道工事の囲いができたため、見通しが悪くなっていました。工事会社に柵の透明化とカーブミラーの増設を要望し、改善を実施しました。

#### 列車運転士のため、 カーブミラー増設



柵の透明化